

長篠合戦屏風・連吾川が大河で描かれている絵図。

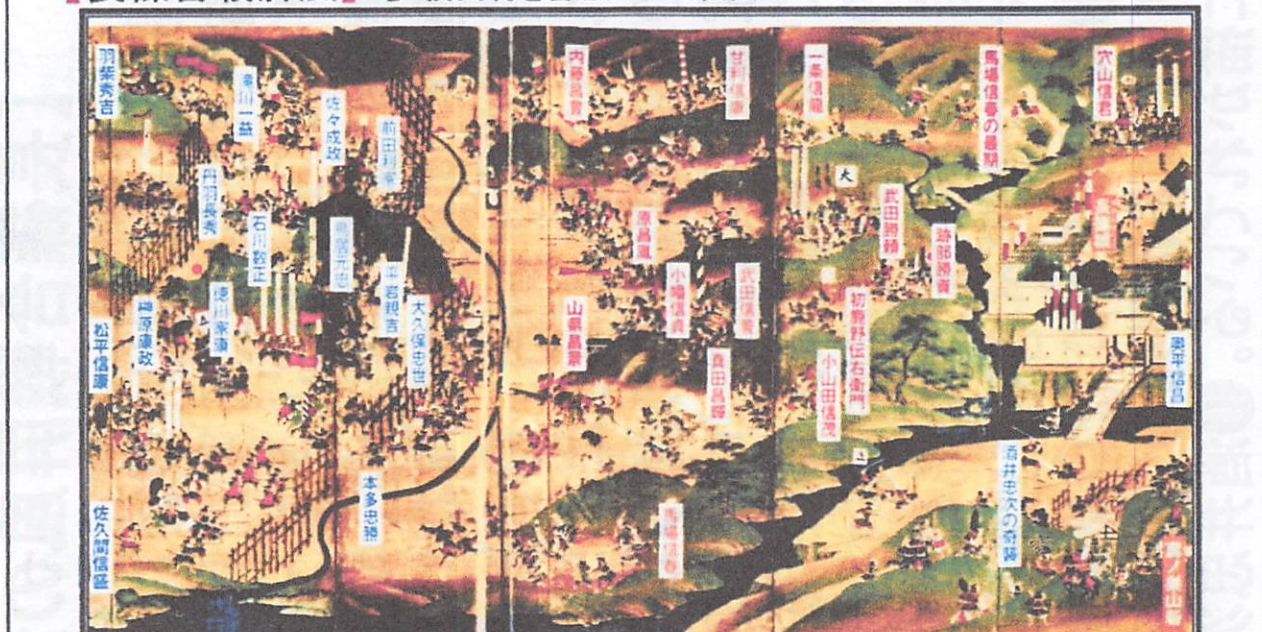


長篠合戦屏風に描かれている武将です。私は誰でしょう？



* 喜蔵とりつき銃 全長158cm 墨書銘天正11年9月9日 京都大徳寺龍源院所蔵
日本で最古の在銘火縄銃 信玄砲も戦国時代の伝説の古い火縄銃です。

【長篠合戦屏風】・参戦武将を書き入れた絵図

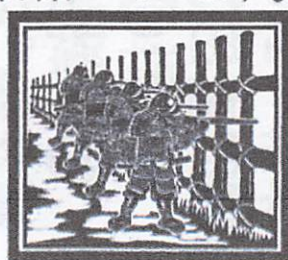


【長篠合戦図屏風へのタイムスリップ】: 屏風の説明



⑤ 設楽原の古戦場 島民謡会

- ・設楽原歴史資料館内に、地元の東郷東小学校の6年生が、卒業記念に美術の中山先生の指導により描いた【長篠合戦図屏風】の大作が掲げられています。この屏風で、長篠・設楽原の戦いの概要が解ります。合戦屏風には、幾多の謎が隠されています。その謎を合戦屏風を見て解説します。ポインターがあると便利です！
- ・長篠合戦図屏風は、長篠・設楽原の戦い後70年後の江戸時代初期に犬山城の成瀬家の要請により、家臣に大将の成瀬正一の軍功と、幕府に成瀬家の活躍を知らしめる為に描かせた六曲一双の屏風で、現在12点程が伝わっていますが、その多くがこの成瀬屏風(犬山白帝文庫)の写本です。描写・構図の完成度は、現存する【長篠合戦図屏風】の中で最高の作品です。合戦屏風は、日本独特の歴史資料でこの【長篠合戦図屏風】を見た後世の人は、武田騎馬隊が、織田・徳川軍の大量の鉄砲により瞬時に粉碎されたイメージが、頭の中に植え付けられたと思われれます。【・・歴史は勝者により作られる。】
実際には、決してこの戦いがワンサイドで無かったことは、武田軍の戦死者数が9,000人、織田徳川連合軍の死者数が合計6,000人とも云われる数字が、戦いの壮絶さを物語っています。



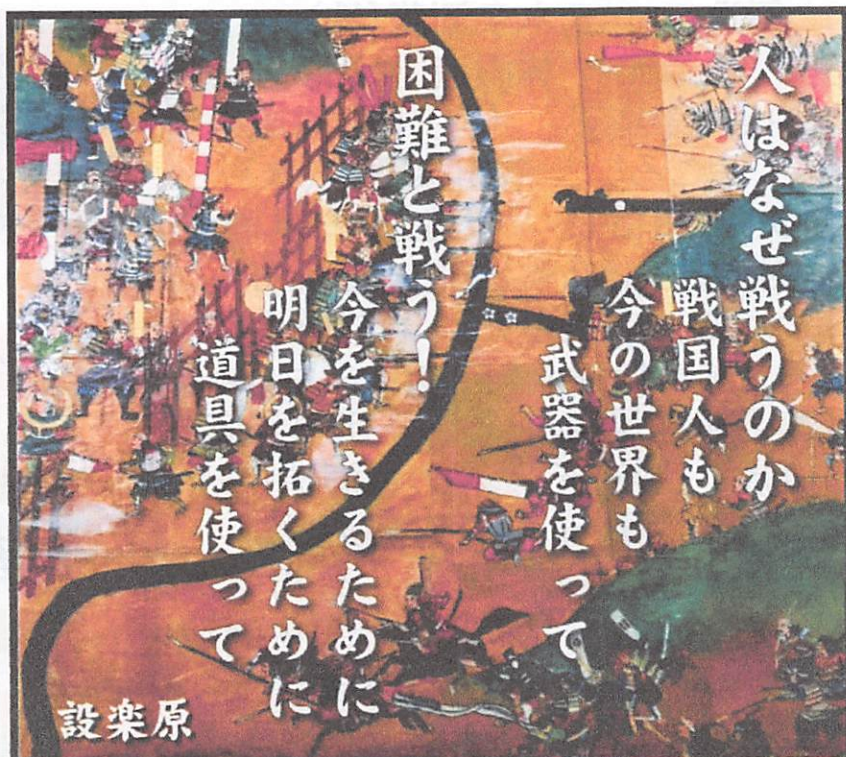
【長篠合戦屏風の解説】



・長篠合戦屏風は、戦後70年の江戸時代の初期に、戦勝側の成瀬家の要請により描かれたもので、5月21日の戦いが、一瞬で分かる構図で描かれています。4扇の下方に兜をかぶらず立っている人物が、成瀬家の始祖、成瀬正一です。①信長の陣地の位置・茶臼山は、戦況により何時でも戦線より離脱できる場所 ②勝頼の旗指物【大】は諏訪大明神の大で【風林火山】の武田家本来の旗では無く・四郎勝頼の名前の意味する事。 ③長篠城は中世の平山城です。天守閣らしいものと狭間が描かれているが、これらは、1576年の安土城の築城から近世城郭として現れた。④家康の陣地の陰陽師の旗(ダビデのマーク)は戦い時の天候・吉凶を占わした祈祷師⑤家康の陣の【五大菩薩】の旗は、使い番で戦場を駆け巡り情報伝達役 ⑥描かれている火縄銃の数* 連合軍33挺武田軍5挺: 騎馬の数* 連合軍25騎 武田軍28騎の物語る事⑦着物を着てかがんでいる人物は絵師? ⑧原田弥之助が旗の切れ端を、自軍に持ち帰っている切れ端が、倒れた兵と一致する妙。⑨山縣昌景の首級を、志村又右衛門が抱えて立ち去る画。 ⑩信長の唐人兜⑪本多忠勝の鹿の角の兜⑫大久保忠世のアゲハ蝶⑬大久保忠佐の釣り鐘らは、論功行賞のための現代のコスプレ衣装⑭勝頼の観戦地・才の神の位置・鉄塔⑮殿(しんがり)の馬場信房が右上に描かれている。⑯酒井忠次による【鳶ヶ巣山・武田五砦】の奇襲攻撃の画。

【どうする家康長篠・設楽原の戦いの三が並ぶ雑学】

- ・戦いの時は【天正三年】五月二十一日
- ・主戦場は、【三河の国】(三州)設楽原
- ・戦国時代の日本【三大合戦】の1つ(諸説あり)
- ・【三英傑集結】の戦い【織田信長・徳川家康・豊臣秀吉】
- ・武田勝頼は、【武田信虎・武田信玄】に次いで【三代目】
- ・織田軍の兵数は、【三万人】
- ・使用した火縄銃は、【三千挺】射撃方法は【三段撃】・【三段構え】
- ・戦場近くを流れる川は、【連吾川・大宮川・五反田川】の【三つの川】
- ・【山縣三郎兵衛】 ・【山家三方衆】 ⇨ 【作手奥平・田峯菅沼・長篠菅沼】



将来の予約切符

三英傑集結天下統一火蓋の地
長篠・設楽原バトルフィールド
織田信長本陣地 極楽寺から

西方極楽浄土 天国 ゆき

信玄塚駅 駅長・閻魔大王発行

極楽寺

↓天国

